

くにこもも

題字は創立者 有木春菜先生

2025
第90号



校長に就任いたしましたから初めての春を迎えました。大役を仰せつかった責任の重さを痛感している私に手を貸してくださいる学園の皆様や先生方のおかげで、日々を重ねております。今自分がこの職に就く意味は何なのか、幾度も立ち止まり見つめ直し考えております。

私が国本学園に入職したのは平成4年。当時は小学1・2年生だけが2クラス制、全校児童が200名に満たない小さな学校でした。33年経った現在は、全校児童が300名の学校になっています。今まで国本小学校に携わった方々が懸命に積み上げて来た日々の教育実践により、小規模校から中規模校へと成長した年月を私は現場の一員として関わりながら、その経緯をずっと



白井 智子 国本小学校校長

と見ていたことになりました。

今年の4月、国本小学校は理想の少人数制教育を深化するために、3クラス制への新たな扉を開き、5年後には18クラスになる予定です。国本学園の建学の精神を具現化している情操教育

チャレンジの先に

の継承、そして時代に適応した新しい教育の開拓、この2つをバランスよく融合する舵取りが今私に求められている職務なのではないか、と思うに至っております。

このチャレンジの先に、国本小学校に集う子ども達の幸せな未来を描きながら、子ども達の成長に寄り添う先生方の澁刺とした姿を描きながら、これまでの経験を活かし職責を全うすべく努力する所存でございます。幸いにも



校訓

一 真心の教育
一 自然に對する素直
よの涵養
一 思を即思に報
ゆる心の育年

今年には巳年。成長や発展を象徴する縁起のいい年に巡り合いました。脱皮し、新たな一歩を踏み出す国本小学校に、

国本小学校校長 白井 智子

今までと変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【国本小が注力する教育活動】

◆課題解決型学習《探究》

国本小では「持続可能な社会の創り手の育成」を目指し、次の3つを大切に5・6年生向けのプロジェクトを展開。

① 探究学習と実体験を通じた学びから興味・関心を最大限に育てる。

② 自分達にできることを自ら考える土台を作る。

③ 自ら考えた企画を企業や地域と連携して実践し、自ら情報を発信することが周りの人達の意識や行動に変容を促すという経験を積む。

これらの学習活動は、子ども達が社会との繋がりがりや自身の役割を理解し、行動を起こす力を育む重要な機会となることを確信している。

◆国際コミュニケーション力《英語》

1年生から始まる国本小の英語はネイティブ教員と英語専科教員とのチームティーチング。幼少期こそネイティブな発音の授業を充実させるべきとの思いから、低学年の授業を週1時間から2時間に拡充（令和7年度入学の1年生から）。授業で培った力を試し伸ばす場が3年生から参加できる「オーストラリア海外英語研修」。今夏の実施に向けて、小林名誉校長が作り上げた充実した研修プログラムで始動。

令和6年度「記念祭」が10月26日（土）、27日（日）の2日間開かれました。今年度のテーマは「Rainbow」多様性を認める世界へ」。幼稚園から中・高まで、日頃の学びの成果を形にした作品展示や発表を行いました。コロナ禍の余波も落ち着き、おかげさまで多くの来場者にお越しいただきました。新たな時代に向けてさらに飛躍を続ける国本の教育の一端をご覧いただく晴れの舞台。子どもたちからは笑顔があふれ、いつも以上に目を輝かせていました。年齢の垣根を越えて子どもたちが手を取り合う姿は、総合学園ならではの素晴らしい光景でありました。



高1は「世界を旅しよう」



高2の「緑学グルメ」のコーナー

企画ごとに見えた成長

中・高

10月26日（土）・27日（日）に記念祭が行われ、多くの保護者や来場者の皆様にご参加いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。今年度のテーマは「Rainbow」多様性を認める世界へ」。中高生が創造力と個性を発揮し、多彩な企画を展開しました。

みんなが主役！

令和6年度記念祭

中学生は英語劇と異文化に焦点を当てた展示に挑戦しました。英語劇では発音や表現方法を工夫し、練習の成果を本番で見事に発揮。展示では、各国の文化を調査し、食や音楽などを紹介することで、異文化理解を深める良い機会となりました。特に中学3年生が中心となり、責任を持って準備に取り組み姿が大変頼もしく感じられました。高校1年生は「世界の祭り」をテーマ

笑顔があふれて

トボール部では、在籍する3年生から6年生が全員で試合に挑み、たくさん声援を頂きました。

小学校2階の教室では1・2年生が図工と生活の時間に学習したことを中心に色鮮やかな作品を展示し、3・4年生は図工に加え理科、社会で調べたことを、5・6年生はそれに加えて家庭科の作品も展示しました。6年生は今年度初めて、英語でのプレゼンテーションと自己紹介に挑戦しました。



各学年の「世界観」がくっきり

テーマは「多様性」

を凝らし、展示室に入った瞬間、各学年の世界観を感じて頂けた記念祭となりました。廊下の壁には、全校児童の大判の習字作品が並び、沢山の皆様からお褒めの言葉を頂きました。

コロナが明けて、訪れた卒業生も沢山いました。次々と来校する卒業生は、小学生の頃の自分を思い友達と再会し、また在校生にとっては、成長した先輩たちの姿から自分の少し先の未来を描く良い機会となりました。年に一度の記念祭は、子どもたちの過去・現在・未来を繋ぐ場であると、改めて思いました。

作品見つけ誇らしげ

幼稚園

幼稚園では両日、作品展、ゲーム、バザー、デリカ、子ども売店、木育活動コーナーを開き、沢山のお客様に楽しんでいただきました。今年度初めての取り組みとなる木育活動コーナーでは、工作、丸太切り体験、大鋸屑プールなどの体験を楽しみました。

【年長組】子ども達が指折り数え心待ちにしていた記念祭が開催されました。幼稚園だけでなく、小学校、中

マに、日本、カナダ、パキスタン、フランス、中国について調査し、装飾や展示を通じて来場者を楽しませました。各国の祭りをまとめた資料を展示教室に貼り、フォトスポットも設置。来場者の写真撮影を率先して手伝う姿に心の豊かさが感じられました。初めての記念祭でしたが、学年全体の協力で準備を進める中で、学びと成長の多い機会となったようです。

高校2年生は「緑学グルメ」と題し、焼きそば、ホットドッグ、チュロス販売しました。2日間で2,090食を完売し、準備や調理の中でクラス垣根を越えた協力が印象的でした。

学年ごとの「世界観」

小学校

小学校として5年ぶりに復活したのが個人音楽発表会、1・2年生のダンス、保護者主催のゲームや喫茶コーナー等。また来年度入学希望者のご案内もコロナ禍前に近い形で行うことができました。たくさんの子も達が入り部しているサッカー部では、国本小学校卒業生のプロサッカー選手を迎えたサッカーイベントを催しました。

Mホールでは、発足してから数年できめきめ実力を伸ばしている小学校吹奏楽部によるオータムコンサー



年少組3クラス共同で虹をテーマに制作

学校・高等学校の教室まで足を運び、催しを楽しみました。作品展では細部までこだわって作った作品について子ども達自らが一生懸命お家の方に説明している姿が印象的でした。

【年中組】作品展では、一学期と二期に取り組んできた制作物や3クラス合同での共同制作等、5つの作品を展示しました。様々な素材や道具に触れ、楽しみながら作品づくりを行いました。当日、自分の作品を見つけると誇らしそうにお家の方に話していました。保護者の皆様にもお子様の成長を実感して頂ける作品展になったのではないかと思います。

【年少組】入園してからできるように

た。指を怪我した友人の代わりに調理シフトを引き受け、長時間焼きそばを炒め続けた生徒の姿には感動を覚えました。

また、軽音楽部や吹奏楽部、演劇部、ダンス部のパフォーマンスや、美術部・華道部の作品展示も盛況でした。普段は見られない同級生の姿に触れ、互いへの尊敬の念を深める機会となりました。

今回の記念祭を通じて、生徒たちは企画力や協調性、表現力を磨き、大きく成長しました。この経験が今後の学校生活や学びに活かされることを期待しています。



工夫を凝らした小学校の展示

トを行い、大勢のお客様に拍手を頂くことができました。ミニバスケッ



バザーのコーナー

なった技法を組み合わせた5つの作品と、虹の共同制作を作りました。初めて大きな作品を協力し作る経験を楽しむことができました。3クラス合わせて完成した時の感動と達成感や、自分の作品が展示される嬉しさを感じながら、友達の作品からも刺激をたくさん受けました。制作の世界の広がりや意欲の高まりが見られた作品展となりました。

母の会や記念祭関係の皆様、当日も沢山の保護者の方々のご協力のもと、笑顔あふれる記念祭となりました。多くのお力添えに感謝いたします。ありがとうございました。

中学校・高等学校

世界と交流し自信

中学校 カナダ語学研修

中学3年生は、7月頭にL.Aコースが2週間、D.Dコースが3週間、カナダ・ビクトリアでの語学研修に参加しました。この研修は、生徒たちが異文化を体験し、英語力を伸ばす絶好の機会となりました。出発直前のオリエンテーションでは、ホストファミリーの詳細が伝えられましたが、初めて親元を離れる生活に対する不安と、自由な時間が増えることへの期待が入り混じり、複雑な気持ちで出発を待つ姿が見られました。それでも、生徒たちは新しい体験に胸を膨らませ、海外での生活を楽しむ準備が整っていたようです。

研修が始まると、語学学校には世界各国から英語を学びに来た多様な人々が集まりました。その中で、日本から参加した生徒たちは年少者として特に親しまれ、現地の大人たちや他国の生徒から可愛がられる存在となりました。校内では友人同士や引率教員を含め、できる限り英語で会話をすることが推奨されました。最初は英語でのコミュニケーションに戸惑いを感じていた生徒たちも、日々の生活を通して少しずつ慣れ、



新しい出会いも楽しんで

自信をつけていったようです。このような環境で過ごした経験は、生徒たちにとって非常に貴重な学びの機会となりました。

また、日常生活の中では、自動販売機の使い方が分からなかったり、カナダ特有の文化に驚いたりすることもあったようです。それでも、ホストファミリーとの交流や現地での新しい出会いを重ねる中で、次第に生活に慣れ、カナダでの毎日を楽しくするようになりました。つまり続ける硬貨をどうすればよいか困っていた生徒たちも、帰国する頃にはこうした小さな悩みを乗り越え、自信を持って行動できるようになったといえます。

卒業の日には、多くの方々に見送られ、生徒たちはその瞬間に現地で築いた温かな人間関係の大切さと、

自分自身の成長を実感することができたようです。この研修を通じて得た経験や自信を今後の英語学習に活かし、さらに意欲的に取り組んでく

平和への考え深める

高校 沖縄 修学旅行

高校2年生では、11月5日から9日の5日間、高校生活最大の行事である沖縄修学旅行が行われました。前半は平和学習をテーマに、沖縄県本島南部の戦跡を訪問。事前学習で学んだひめゆり学徒隊の歴史に関連し、平和祈念公園や荒崎海岸を訪れ平和への祈りを捧げました。また、戦争体験者を招いての講和も行われ、生徒たちは戦争の現実について深く



忘れがたい思い出となりました

れることを期待しています。そして、いずれ再びカナダで学ぶ日を目指して、大きな未来への一歩を踏み出してほしいと願っています。

学ぶ機会を得ました。2日目には、糸数アブチラガマやひめゆり平和資料館を訪問し、展示をじっくりと見学。特に資料館では、多くの生徒が集合時間まで熱心にメモを取りながら平和について考えを深めていました。

2日目の午後からは文化・自然体験が始まり、「おきなわワールド」でのシーサーの絵付けや琉球ガラスづくり、3日目の美ら海水族館訪問、安田地区でのリバーカヤックなど、沖縄の文化や自然に触れる貴重な体験を楽しみました。リバーカヤックでは、マングロープや地球環境問題についてのお話もあり、生徒たちは日常生活が環境に与える影響について考える機会となりました。

最後の2泊は北部地区での民泊体験。地元の家庭に泊まり、お菓子作りや三線体験などを通じて沖縄の文化や人々の温かさに触れる貴重な時間を過ごしました。「また戻ってきたい」「民泊が一番楽しかった」という声も多く聞かれ、どの生徒にとっても忘れがたい思い出となりました。

小学校

新鮮な気づき、充実

オーストラリア英語研修

8月4日～8月10日(Aグループ)、8月23日～8月29日(Bグループ)にオーストラリア海外英語研修を実施しました。各グループ30名ずつで研修を行い、3～6年生の児童計60名が本プログラムに参加しました。オーストラリア海外英語研修に向け、オーストラリアの歴史や文化、ホームステイ先での過ごし方について学ぶための事前学習も行いました。

研修当日、空港に集合した子どもたちは、待ちに待ったオーストラリア海外英語研修のスタートに興奮しながらも、少し緊張している様子が見られました。オーストラリア滞在中は、ホームステイをし、現地の小学校とも交流することができました。日本とは異なる文化や習慣に驚きながらも、子どもたちがすぐに順応している姿には驚かされました。たとえ言葉が上手く伝えられなくても、屈せずトライし続けることの大切さや、楽しいことも困難なことも全てが自分にとってかけがえのない経験になるということにも、子どもたちは少しずつ気づくことができたようです。また、水などの資源や食べ



物を大切にするとということについて、ホストファミリーからもご指導いただくことがあり、今ある「あたりまえ」

があたりまえのことではないということや、感謝の気持ちを忘れてはいけないということにも改めて気づく

学年越え、心一つに

音楽発表会

今年度は、1年生から6年生までがそれぞれ曲を発表し、5年ぶりとなる全校合唱「第九」を披露することができました。

遡ること5年前、コロナウイルスが蔓延し、学年で集まり歌を歌ったり、リコーダーを吹いたりすることが制限され、発表会の実施自体が難しい年が続きました。徐々に通常通りの授業が再開され、そして今年度、さらにパワーアップした形で全校児童が揃って音楽発表会を行うことができ、大変感慨深い思いでした。



ことができたようです。初めての海外、初めての買い物、初めてのホームステイなど、経験することすべてが初めてのことばかりの子どもも多くいましたが、子どもたちはいつも笑顔いっぱいでした。このような貴重な経験ができました。このような貴重な経験ができたことに感謝し、オーストラリア海外英語研修で学んだことを糧にして、これからも学校内外で活躍してくれることを期待しています。

低学年は、斉唱を中心に発表しました。1年生の発表曲「ジングルベル」では、すずを鳴らしながら、英語の歌詞にも挑戦しました。2年生は、斉唱に加え、ピアノの二部合奏にもチャレンジしました。練習では立ちながら鍵盤を押すことに苦労しましたが、本番では力強い演奏ができました。

中学年は、二部合唱に加え、リコーダーなどの器楽合奏も発表しました。3年生のリコーダー奏は、音をきれいに吹くため、タンギングを意識して演奏し、4年生の合奏では、身につけたタンギングの技術だけでなく、指揮をしっかりと見て、互いに音を聴き合いながらリズムがずれないように合奏しました。

高学年は、5年生は器楽合奏で「惑星」、6年生は「展覧会の絵」を発表しました。楽譜を配った時は「こん

な曲演奏できないよ」と言っていた児童も、友だちと協力しながら、だんだんと吹けるようになり、自信をつけてきました。本番では、一人ひとりが堂々と担当楽器を演奏し、達成感を味わうことができた素敵な発表でした。

今年度、オープニングで発表した英語科との発表曲「民衆の歌」は、夏の教員研修会で決めた新しい取り組みです。英語の授業では歌詞を、音楽の授業では歌を中心に練習し本番に臨みました。

全校合唱曲「第九」は、全校児童が器楽合奏にのせてドイツ語で歌いあげる壮大な曲です。全学年、5月から練習を始めて、曲を完成させていきます。3年生までは歌唱のみ、4年生以上がリコーダー、6年生がその他の器楽部分を担当します。いざ、本番。300名で歌う「第九」は、とても力強く、観客席の奥まで響き渡った感動的な演奏となりました。今回の音楽発表会を通して、本番に向けて練習を重ねることでどんなことができるようになる喜びや、学年を越えて「心を一つにする」ことの大切さ、またみんなのために力を尽くすことの楽しさを感じられた行事となりました。今後、この経験を、他の行事や学級で発揮できるように期待しています。

日々の成長を実感

国本幼稚園園長 小辻康子



岩村きよみ先生に替わり、今年度4月から国本幼稚園で園長を務めております小辻康子です。

昨年度までは、国本小学校に勤務しており、保護者の皆様や先生方に

幼稚園

学びの宝庫 木育活動

2024年度、国本幼稚園では木育活動を通して、五感を存分に使って体験する時間を大切にしてまいりました。

年長組ではお泊り保育で奥多摩の森に出かけ、森の専門家の方々との場所だからこそできる沢遊びや鉋屑プール、ツリーハウス体験等を楽しんできました。木育活動では「遊び」を通しての学びが多く経験できます。体感するだけでなく自ら考えて行動することも魅力のひとつです。森

大変お世話になりました。幼稚園へ異動した当初は、小学校との違いに戸惑う事もありましたが、教職員の方々や子ども達に助けてもらいながら新しい世界を楽しめるようになってまいりました。

私の仕事は、朝、玄関で子ども達を迎えることから始まります。「おはようございます」という私の声に、笑顔で元気に「おはようございます」と返してもらえると、私自身が元気をもらった気持ちになります。加えて今、日々の生活を通して、子ども達が色々な遊びの中からたくさんのごことを学び、それが成長につながっ



ヒノキの香りを感じながらの伐採体験

の中では手入れをした森と、自然のままにした森の違いを目の当たりにして「明るい森と暗い森」の意味を知ることができました。

ていることを実感しています。夢中になって様々なことに取り組む素直な子ども達は本当に素晴らしいと感じています。そして、その子ども達の心に寄り添い、温かい声をかけながら一人ひとりを見守っている教職員の方々の明るさ、優しさにも感謝しています。

幼児期は人間形成の基礎を培う大切な時期と言われます。その大切な時間を皆で楽しく、元気に笑顔で過ごせるように、その願いを心にとめ、国本幼稚園がますます活気のあふれる幼稚園となるよう微力ながら尽力してまいりたいと思います。

森を守る為に手入れをする一環として行われている森林伐採を経験した子ども達。ヒノキの香りを感じながら実際にのこぎりで木こり体験を行い、驚きと興奮で大歓声が上がるほどでした。子ども達が触れた奥多摩のヒノキの木を使い、幼稚園で長年親しまれていた遊具のすべり台をリニューアルすることができました。

1本の太木から職人さんが細かな手作業で木製遊具を完成させていく過程を間近で見られたことも、貴重な経験となりました。国本幼稚園で常日頃から大切にしている「感謝をすなわち心」を育むことにも繋がる経験となり、職人さんへの憧れを胸に将来

の夢ができた子ども達もいるほどです。完成した遊具のお披露目を終えた後、各クラスで遊具の名前を話し合う機会を設けました。

年少・年中・年長組の子ども達の思いが詰まった新遊具の名称は「わくわくすべりだい」に決定しました。ヒノキの木のぬくもりを感じながら心地よい香りに包まれる、子ども達の大切な遊び場となっています。多摩産材を有効利用する目的とSDGsの取り組みが繋がりが、幼稚園での木育活動が今後さらに充実していくことに期待をしています。

編集後記

春の風が吹く季節となりました。正門を入ってすぐの芝生には大きな薄花桜が皆さんの登下校を見守ってくれています。春にはピンクの花が咲き、新緑の頃には強い日差しを遮ります。秋には赤や黄色の落ち葉の絨毯。冬の頃にはキラキラとしたイルミネーションの明かりが太い幹を照らしています。時には立ち止まって四季を感じてみてはいかがでしょうか。

発行日 令和七年三月三日
発行所 国本学 園

〒一五七-〇〇六七
東京都世田谷区喜多見八-十五-三十三
電話 〇三(三四一六) 四七二二
FAX 〇三(三四一五) 一三三三